

このたび審査員長にご指名いただいた山崎です。  
どうぞよろしくお願ひします。

私は中学生の時に星新一のショートショートを読み始め、SF小説の世界に入り込みました。未だジャンルが確立していない分野に、多くの作家さんたちが挑戦しているのが眩しく思えたものです。

当時のSFには「ジュブナイル」という、今のライトノベルの先駆となるようなジャンルがありました。その後大御所となる作家さんたちも競って作品を書いていました。『時をかける少女』などはそのころの傑作と思います。

時を隔てて現在、私はライトノベル、特に異世界転生ものをよく読んでいます。『転生したらスライムだった件』や『ウォルテニア戦記』『無職転生～異世界行ったら本気だす～』などは、メ切に追われながら読みふけたものです。

高度経済成長期に「ものづくり大国」であった日本は、「コンテンツ大国」として世界に影響を与えようとしています。それを下支えしているのが、かつてはサブカルと呼ばれた権威なき創造世界のエネルギーです。

昔は「紙と鉛筆があればできる商売」と言われた作家業ですが、いまやパソコンとインターネットが当たり前となり、それと同時に誰もが明日はメジャーになれるという可能性を手に入れました。

「ラノベ×ショートショート」というまったく新しいジャンルは、大きなチャンスだと思います。私の知識と経験を総動員してお手伝いさせていただきますので、どうぞよろしくお願ひします。